



霞台小だより

# ひばり

No. 642

令和2年8月19日発行

青梅市立霞台小学校

青梅市新町1-35-1

電話 0428-31-3090

校長 佐藤 広明

## 夏の思い出

校長 佐藤 広明

短い夏休みが終わりました。外は蝉時雨、降り注ぐ真夏の日差し、息も辛くなるほどもわっとした空気、昨年と変わらない猛暑の8月でしたが、昨年までとは異なる過ごし方をされたご家庭が多かったのではと察します。私も自宅だけの休日を過ごしました。存分に本を読んだりPCで映画を観たりしているうちに、自分の小学生の頃の夏休みが懐かしくなり、小さいころの貴重で格別な体験を鮮明に思い出しました。

小学生のころ、夏休みに特急列車に乗り、遠くのいとこの家に行くことが楽しみでした。そこでは毎朝早起きをしてラジオ体操に出かけました。しかし、早起きしたかったわけでもなく、ラジオ体操が楽しみだったわけでもありません。その後に楽しみがあったのです。

ラジオ体操が終わると、大きなお兄さんをリーダーにたくさんの小学生が列をなして遠くに見える林に向かって歩いていきました。喉が渇き、おなかが減って辛くなってもワクワク感が勝っていました。途中、蝉の声がうるさいほど聞こえてきますが興味はありません。大きなカミキリムシも目に入りますが見向きもしません。

林の奥に入り、大きなお兄さんは確信をもって大きなクヌギの木の前で止まります。ここから一気に緊張感が高まります。小学生たちは思い思いにクヌギの周りに広がり、声も音も出さずじっと動かず構えます。すると大きなお兄さんはクヌギを力強くキック、そこから一瞬遅れて、ポトツという音とともに黒いかたまりが落ちてくるのです。すかさず近くの小学生はそのかたまりを見付け大声を出すのでした。「カブトだ」「ミヤマだ」「ヒラタだ」、緊張は一気に途切れ、自分は捕まえられなかった悔しさでいっぱいになる瞬間でした。でも、最後に成果をみんなで分け合い、大きなお兄さんから一匹もらえた時のうれしさは格別でした。

きっとこの夏、いつもと異なる夏休みでしたが、普段できない経験や体験があったことでしょう。これから始まる長い2学期のエネルギーにしてほしいと思います。新しい日常の学校生活はこれからも続きますが、子供たちが学校生活を通して、安心してうれしい、楽しい経験ができ、前進できる2学期にしていきたいです。